

【プレゼンテーション②】東京 2025 デフリンピックを終えて

登壇者(敬称略)	山田 真樹 ぴあ株式会社所属 東京2025デフリンピック陸上男子400m
※肩書はイベント開催	金メダル 男子4x400m リレー金メダル 男子200m 銀メダル
当時のもの	

デフ陸上で選手として出ております山田真樹と申します。ちょうど1カ月前に東京2025デフリンピック大会の開会式がありました。

今日は私から見たデフリンピックの現状についてお話ししたいと思います。

私は1997年6月に生まれました。デフリンピックは8年前、トルコ大会で初めて参加させていただきました。出場した種目は200mと400m、400mリレー、100mリレーでした。400mでメダルを取りました。

リレー2種目でもメダルを取ることができましたので、合わせて3つのメダルを取ったことになります。

初めてのデフリンピックは、今の自分の力を試してみようと思っていて、メダルを取るつもりで参加したわけではありませんでした。決勝に残ればいいな、くらいの気持ちでしたが、自分でも意外でしたがメダルを取ることができたわけです。

2回目のデフリンピック、ブラジルでの大会では優勝を目指そうと思っていたのですが、この時はコロナの影響がありました。そして、日本選手団にコロナの罹患者が出てしまい、開会式には出たのですが、自分たちは棄権しなければいけなくなり、試合に参加しないまま帰ってくることになりました。もちろん、陸上選手としてのやる気はすごく下がりました。でも、SNSを通して、世界のろう者たちとの交流があり、トルコやウクライナ、中国など、いろいろな国々の選手たちが「また次のデフリンピックで会いましょう」「また一緒に走りましょう」とお声がけをくださいました。ブラジル大会が終わった後、次に東京大会になった決定を聞いて、よし、これはやるぞという覚悟を決め、メダルを取るために頑張ろうと決意を固めました。

ただ、東京での大会開催が決まっても、デフリンピックの国内での知名度は16%と低く、そのまま東京大会を開いても、盛り上がらないのではないかと、お客さまに来ていただけないのではないかと心配になり、もっと盛り上げていくべきだと思いました。

そして、デフ陸上の選手を紹介する本を、自分たちで作りました。そして、東京都からデフリンピックのポスターを作る時、その顔として、ぜひ出演してくれないかという依頼がありました。そのポスターは街のあちこちに貼られました。見たことある方いらっしゃいますかね。自分自身も、そこまで張られると予想していませんでした。とてもうれしいことでした。

そして、うれしいことがもう一つ。ポスターでデフリンピックを知ってもらう活動だけではなく、自分の家族に新しい命の誕生がありました。娘が生まれました。今年の7月に誕生しました。おめでたいこと続きと思われるかもしれませんが、大変なこともいろいろとありました。

娘が生まれた7月ころから体調不良が続き、練習がうまくいかなかったり、病気になってしまったりという状態になりました。デフリンピックが始まる2週間前ぐらいにあった最終合宿の時も、最終日の2日前、1日前に熱が出てしまって帰るといったような状況でした。このままデフリンピックも参加しても、メダルは取れないのではないかと、400m は棄権して 200m だけに集中するべきか、それぐらいまですごく悩みました。

そこで、妻に相談したところ、妻から手紙が来ました。これは全部お見せしたいところですが、時間の関係もありますので、その一部を抜粋したいと思います。「メダルを取る必要があるのではなく、これから楽しんでいく気持ちを持ちながら挑戦してほしいと思っている」というような内容でした。

不思議なことに、その手紙を読んで自分の肩の荷がすごい軽くなった感じがしました。デフリンピックの顔だという形でポスターに載っていたので、自分ではメダルを取るべきと思っていたのですが、手紙は「競技は楽しむべきだ」というポジティブな気持ちで満ちあふれていたからです。結果的に、メダルを取ることができました。

やはり言葉には不思議な力があると思います。妻の言葉だけではなく、たくさんの大会の関係者の方々、そして観客の皆さんの大きな声援も大きな力になりました。そして、それが大会を盛り上げていくきっかけになったと思います。

あらためまして、東京 2025 デフリンピックという場所、感謝という言葉では終われないぐらいの場所でした。たくさんのサポートを受けて、たくさんのつながりができた場所でした。東京 2025 デフリンピックに対してサポートしてくださった皆様さまのおかげだと思っています。この場を借りてお礼を言いたいと思います。本当にありがとうございます。